

**平成29年度 旧日本銀行新潟支店長役宅「砂丘館」
指定管理者事業計画**

1. 運営の基本方針

一般見学、貸室、自主事業の3つを柱として、建物の風格にふさわしい文化の香り漂う場として、市民により親しまれる施設となることを目指します。

2. 自主事業

別紙のとおり

3. 一般見学、貸室

○ 一般見学の集客計画

砂丘館の持つ、静かな落ち着いた雰囲気을大切しながら、入館者に満足していただける施設管理を行います。

○ 貸室の利用促進計画

利用促進の広報と、利用者へのサポートを進めていきます。

多様な用途で利用できること、飲食も可能であることなどを積極的にアピールしていきます。現在すでに行っている、テーブルや座布団、お茶道具などを貸し出しするサービスについてもさらに広報で積極的にアピールしていきます。

また、展覧会・コンサートなどの利用では、準備段階からサポートを行い、利用促進を図ります。

4. 人員体制

○施設職員

職 種	員 数	備 考
館長	1名	学芸員
副館長	1名	学芸員
受付	4名	
生活文化企画運営担当（非常勤）	1名	

○本社職員

本社指定管理担当職員（本社勤務）	1名
------------------	----

本社は、館から報告を受けるとともに、随時必要な指示と支援を行います。

5. 個人情報保護

個人情報保護指針・保護規定に基づき対応します。

業務により得られた個人情報は、個人情報保護責任者である館長が管理するとともに、本社の個人情報保護責任者へ定期的に管理状況を報告します。

6. 危機管理体制

危機発生時対応マニュアルに基づき避難誘導するとともに、病気や怪我に対しては応急措置を行い、消防など関係機関への連絡を行ないます。

7. 苦情対応

口頭やメール、アンケートなどで苦情を受け付け、苦情処理マニュアルに基づき、原因の除去・是正及び予防措置を講じ、問題解決に当たります。

8. 収支予算

【収入】

(単位：千円)

科目	金額	主な内容
指定管理料	12,553	市からの委託料
自主財源	3,000	イベント収入、企業メセナ、寄付金、喫茶収入等
合計	15,553	

【支出】

(単位：千円)

科目	金額	主な内容
人件費	10,026	
管理費	2,627	光熱水費、施設案内パンフ作成・発送費等
自主事業費	2,900	人件費、企画展作家謝礼、チラシ作成費、喫茶運営費等
合計	15,553	

砂丘館 平成29年度自主事業計画

- ① **自主企画展**／独自の視点で企画された展覧会を年4回開催します。また小規模な企画展示である「特別展示」を3回開催します。

自主企画展

1. 小森はるか+瀬尾夏美「波のした、土のうえ」新潟展 4月29日(土)―5月21日(日)

東京芸大卒業後、東日本大震災後の岩手県陸前高田市に移り住み、被災地の人々の暮らしに寄りそいながら制作した小森+瀬尾による映像作品「波のした、土のうえ」と、瀬尾夏美の絵画による巡回展。かつて震災にあった地へ巡回することを活動のテーマとし、新潟地震のあった新潟市での開催が実現。展示を軸とするともに、訪れる各地で出会う人々との「対話」も目的とし、作家と参加者が語り合う「てつがくカフェ」等の関連イベントも開催する。



小森はるか+瀬尾夏美「波のした、土のうえ」2014年

- ◆会期中ギャラリートーク、及び映画「阿賀に生きる」関係者等をゲストに招いた「てつがくカフェ」を予定。日時未定。

2. 井田英夫 展 7月14日(金)―8月27日(日)

井田英夫は1975年新津市(現新潟市秋葉区)に生まれ、新潟デザイン専門学校、モンセラート美術大学(アメリカ)に学び2002年から新潟を中心に制作を続けてきた画家(現在は広島に在住)。独特の鮮やかで美しい色彩で日本のごく普通の風景や生活情景を写生し続ける。そのアメリカ時代から現在までの作品を紹介する。新潟絵屋でも同時期に新作展を開催(7/22-30)



井田英夫「音戸の夜」2016年

- ◆ギャラリートーク 7月21日(金)14時〜

3. 佐藤真と新潟 展 9月15日(金)―10月15日(日)

日本のドキュメンタリー映画史上に残る傑作『阿賀に生きる』が発表されて今年で25年。またこの映画で監督デビューを果たした佐藤真の没後10年、生誕60年にあたる。佐藤が新潟の地で撮影した3つの作品に係わる村井勇、牛腸茂雄、石塚三郎、佐藤自身による写真と、佐藤の手になる版画や映画にまつわる資料を展示し、多彩なゲストのトークもまじえ、佐藤と新潟の関わりと、彼が遺したものを問い直す。



「阿賀に生きる」撮影風景 写真 村井勇

同時期開催 佐藤真全作品上映(会場:シネウインド)

- ◆ギャラリートーク等関連イベント 日時内容未定

4. 潟の記憶展 2018.2月16日(金)―3月25日(日)

新潟市西蒲区にかつてあった広大な潟「鎧潟」。その潟の記憶を幻想的に描いた日本画家樋口峰夫。写真で記録した石山与五栄門。鎧潟の記憶が創造の原点となった写真家・アクアリスト天野尚。詩によって鎧潟の記憶を刻んだ国見修二。鎧潟とは何だったのか。ジャンルを横断した展示で、その記憶を甦らせる。

- ◆鎧潟をめぐる講座、トークなど 日時内容未定



樋口峰夫「澱み」1984年巻文化会館蔵

特別展示

「死への床に横たわりて 横川美智子の素描から」 4月11日(火)―23日(日) ◆ギャラリートーク 4月15日(土)

舞踏家大野一雄の最晩年の顔を描いた400点近い素描から、30点を展示。人生の最終段階を生きる人間の素顔を見つめる。

「村の肖像Ⅳ・角田勝之助と榎本千賀子の写真」 11月17日(金)―12月10日(日)

福島県奥会津の金山町で60年に渡り写真を撮り続ける角田と、昨年からの同地に暮らし始めた写真家で研究者の榎本による写真展。※新潟大学地域映像アーカイブとの連携企画

「mikyoz」(映像展示) 2018.1月頃 を予定

② **芸術文化の活動**／蔵や居間・茶の間・座敷を会場に、新潟の音楽家、パフォーマーの公演を行う。
実施予定の活動(月に1, 2回開催)

(日時決定のもの)

- ・津軽三味線 小林組。ライブ 4/16
- ・薫風之音ライブ 5/28
- ・北原恭子 ソプラノコンサート 6/17
- ・林家正雀落語口演 6/24・25
- ・池端愛子 朗読公演 9/3
- ・人形浄瑠璃猿八座 10/8
- ・新内公演 11/25

(計画・交渉中の企画)

- ・平原慎太郎ダンス公演 7/9 頃
- ・加藤千明ダンス公演 9/9・10 頃
- ・ファビオ・ボッタツツォ
- ・史佳ライブ
- ほか

③ **生活文化の活動**／伝統的な住空間を生かした日本の生活文化を体験する催しを行う。

季節のしつらい展示：二階座敷や水屋に、講師や「しつらい倶楽部」メンバーによる「しつらい展示」を行う
(1～2週間程度 観覧無料)

4月／花祭り 5月／端午の節句 6月／梅雨はらい・嘉祥菓子 7月／七夕 8月／お盆 9月／重陽の節句
10月／お月見 11月／七・五・三 12月／冬至 1月／お正月 2月／節分 3月／雛祭り

季節のしつらい関連催事：

嘉祥茶会(6/11)、古の結び講座(11/14・21)、もうすぐお正月～日本の伝統造形を作る講習：水引全2回
(11/12・19)・干支の下げ紙(10/24)、香道入門講座(2018.2/18)

佐藤家のお雛様と五月人形展示：新潟市佐藤家に伝わるお雛様と五月人形を2階座敷に飾る 3月、5月
庭園実技講習：松と高木の剪定(未定)、雪囲いと雪吊り 11/4(予定)

④ **その他の事業**

砂丘館セミナーの開催

芸術文化・生活文化について 講師を招いてセミナー、ワークショップを開催。
予定のテーマ 日本美術 現代美術 新潟の伝統芸能 日本の職人文化について など

(計画中の企画)

- ・絵を見る話の会 日時未定 年2～3回を検討
- ・ふるまちな新潟をどり鑑賞講座(8～9月頃を予定)

近隣施設との連携企画

同じ西大畑・旭町かいわいの文化施設と連携・協力して催しを行う。

- ・KAGAI トーク「日本舞踊市山流と古町花街」4/2
(2016年度連携事業「新潟・古町・花街 かつてと今とこれからと」関連の催し)
- ・竹あかり花あかり 10/14/15
(旧齋藤家別邸、北方文化博物館新潟分館、NSG美術館、あさひまち展示館と連携)
- ・新春神楽めぐり 2018.1月上(旧齋藤家別邸と連携)

解説ボランティア養成講座

砂丘館の建物、庭について解説のできるボランティアを養成する講座(全3回)

花と絵による館内のしつらい

ボランティアによる生け花、「砂丘館セレクション(新潟市内の所蔵家から借用した絵画)」で館内を飾る。

見学者への解説

解説ボランティア養成講座を受講したボランティアにより、来館者に館内と庭園の解説を行う。

市民主体の催しのサポート

貸室で行われる文化的催し・展覧会の開催の助言、サポートを行う。